

一日研 報告

- 1 期 日 11月21日 9:00~17:00
- 2 場 所 総社東公民館
- 3 参加者 AK、AS、IK、O、CH、NI、AR
- 4 内 容

理論「発達について」「ケア」(O)

記録「大造じいさんとがん」(AK)

授業プラン「大造じいさんとがん」(AR)

研究成果「戸田実践『ぼくのいぬころ』」(CH)

解釈「ごんぎつね」(AS)

解釈「お手紙」(IK)

解釈「三年とうげ」(NI)

まず、はじめに尾上先生が、発達について語られました。「発達＝意味（物事の捉え方）のアップデート」ととらえ、これを目標に授業をしていこうというお話でした。また、「ケア」について書籍の紹介とともに語られました。かなり多くの要素が取り上げられていましたが、相手に寄り添う意識なしに「ケア」は存在しないのでと思いました。

記録の検討、授業プラン、教材解釈を通じて今回学んだ大きな原則は、次の3点です。

- ・授業として構成するには、やはり「おかしさ」「変化」から入り、その原因・目的を追求していく。
- ・まずは子どももっているものを引き出す。
- ・子どもから引き出したものと、教師の解釈との違いから対立をつくる。

まずは、ここから。たとえ、他のことを助言されても、これらのことをある程度できるようになるまでは、ここから、意識を外してはいけないと感じました。AR